



繪本豊臣勲功記

九編
貳

遠13
2209
82



明へ遠近 特
2209
巻 82

繪本豊臣勲功記九編卷之二

目錄

且元再說補信親諫不及

附四國平均

五十在內通義北願減忠

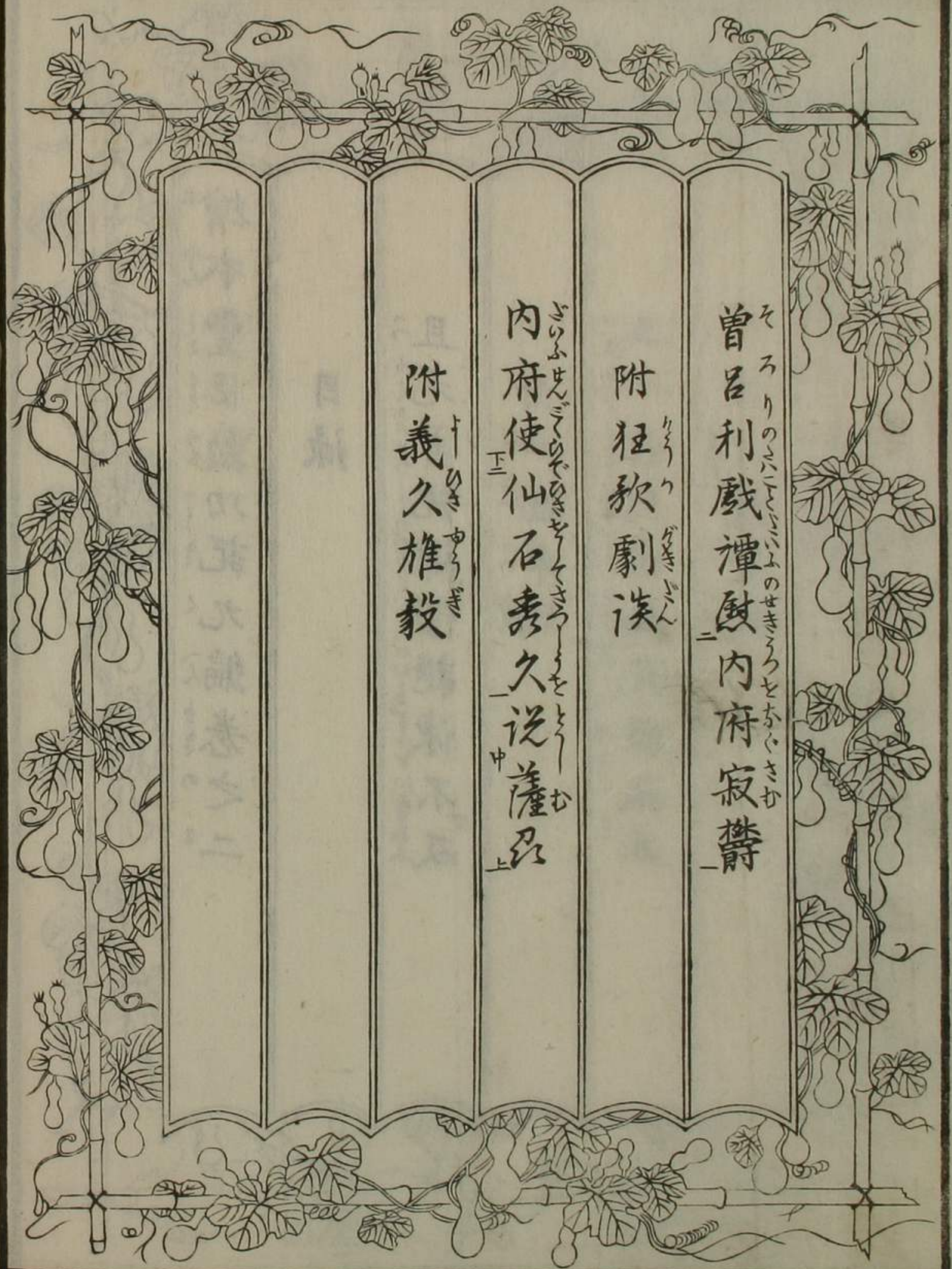
附元親登城

曾呂利戲禪殿内府寂鬱

附狂歌劇淡

内府使仙石秀久説薩呂

附義久雄毅



終本豊臣勅切記九編卷之貳

櫻澤堂山 剛補

且元再説補信親疎不及 属 四國平均

力と以て人と服するに心服するにあらずむ力贖らざる
あり。徳ともつて人と接するに心悅んで徹みふくむ
信も長考我知信親に。四國を双と仰がまはる。智勇兼備
の良將ありて後及み立てに。加茂吉川小早川と困り。後
破みおひて。悪田浮田と驚り。阿及み移り。幾てハ。
秀長秀次と抱き。今内大臣秀吉公。つづり。南
海の暴波と海り。土列不礼入。自ふと。輪早くも大溪
み地張り。浩る大軍と物とも。セむ。保く。然として。屋セむ。



豊臣記九編卷之二

とのへども。天の相る君ふへ及む。忽然として其極と
 悟り。市正が一言の下。不忽帰振。父元親。又利害と悦ん
 と。言知の城。不入来せり。然布ど。元親へ。阿波伊豫。濱波
 の三列。と棄た。土列も。今へ。城の。有て。身と。逼め
 ら。敷。困ら。農夫の。雨と。暮ふ。奔。く。悠然とし
 て。在。る。時。境。子。息。信。親。来。ると。所。欲。ぶ。り。斜。あ。る。を。登。速
 呼。容。對。面。し。と。握。て。涙。と。流。し。こ。が。威。遂。不。秀。者。が。と
 り。不。那。す。で。碎。り。を。つ。る。お。と。の。生。て。の。憤。然。死。し。て。も。妄
 執。百。万。切。不。も。忘。れ。が。と。汝。這。不。来。る。お。と。の。定。で。我。不
 カ。と。副。存。七。の。戦。と。し。て。緝。を。ぬ。初。の。戦。死。不。し。冥。途。阿。修
 羅。の。殺。鬼。と。化。て。秀。者。が。皮。肉。不。齒。忌。む。ん。べ。罷。べ。り。と。さ

る。所。存。あ。る。ん。と。双。の。眼。不。血。と。滝。ぎ。斷。と。あ。し。て。言。発
 り。信。親。聆。て。涙。と。流。し。懷。し。め。さ。る。條。く。へ。現。不。も。理
 至。極。せ。り。然。あ。ぐ。く。不。息。今。日。茲。不。来。る。へ。共。不。戦。ふ。取。存
 不。あ。る。む。父。不。利。害。と。悦。ん。が。と。め。あり。昨日。ま。で。も。今日
 ま。で。も。我。父。君。の。命。不。去。と。が。ひ。徳。所。の。防。一。遭。も。不。覺
 の。軍。ハ。セ。ど。と。り。へ。ども。初。の。勝。て。後。の。敗。る。其。次。く。不
 地。と。逼。め。ら。る。遂。不。大。溪。不。攻。逼。ら。る。と。り。我。を。り。り。の
 徳。將。も。兪。野。の。お。と。く。戦。屋。し。て。或。ハ。戦。死。或。ハ。降。集。今。ハ
 全。く。大。溪。と。遠。言。知。の。辛。く。残。り。て。戦。ひ。秘。術。と。竭。と。と
 い。へ。ども。目。も。途。む。ざ。る。敵。の。大。軍。殊。不。秀。者。奇。謀。と。行。ひ
 將。率。を。是。の。如。く。不。順。和。し。軍。名。強。く。法。令。正。し。く。渠。不。對

して我ふ駒ハ。伯倅が用ひの軍行ハ。さあがふ小児の遊
 戯ゲ小等ひと。こは子の身みとして父の意いふをむくこと。不孝ふこう
 の大罪おほい。うべなれど。吾惡われ共ともふまはと亦また演説えんせきへざるも
 不孝ふこうふあん。此こともつて奉候ほうこう。ひとへ父ちちと勸すすめまわ
 らせ降参こうさんと説とんと欲あしてあり。最ももこれハ言いも更さあり。
 佐將さしょうも俱とも不こ這朋このど不な荏じん。死しと見て心こころの憂うれせざるまはと。金
 石せきよりも粘ね固く。然しかるらふ今いま斯攻かく逼おらまは勝かべき謀計ぼうけいひと
 つもなく。唯ただ我死われしと初はと覚させし。所存しよぜん不な精せい秀しゆ若わが寛勇くわんゆう
 の料理ちりもて。俺われ們らと助すけ土統とさう一國いっくわと錫さりて。天下てんかの補佐ほさ
 々々々々志しめんと況い。元相げんさうもて傳説でんせき。此この詞ことさふ不な維い情じやう
 さらト。然しかもまはまはすで當家たうけの武勇ぶゆうと十分じふぶん不な見みせ。是

て。今降参こうさん不な返へふとも。孰何あまのこまと唾つよちん。憚おそあがし父
 君きみふハ。懷念わいねん替からまはて。諾受だくじゆまひらべしと。送理さうり禱いたら不な演
 々々々り。うハ。波生はせいの佐將さしょうハ。教くわと親合しんがせ。現げ不な理りの至いたり
 と吟合ぎんがて元親もとちちが。心中しんちゆういりふと誓ちかえり。元親もとちちもつての
 不なら不な憤怒ふんぬと發はし。怕おそき息せき子こが今いまの一言いちげん。これ原末げんまつ忠義ちゆうぎ
 ともつて。義采ぎさい將軍かうじんの御末ごまつと立た天下てんか不な旗はたと揚あま。欲あく
 る存念ぞんねんあまむや。然しかるら不な縊くの禍わざら。是これ天命てんめいと謂いつ
 べし。今いまハ既すでふまは悔くまん。轉丸てんまる君きみ不な御生ごせい害がいと進まめま
 わりて。俺われ們らも共とも不な殉死じゆんしせんこと。元げん不な帰きまらと思おもふべ
 し。先せん幸さい秀しゆ若わ三法師さんぽうし不な三十さんじゆ万まん斛こくと鏡あし。自己おのれが天下てんかと
 掌て握わせんとの料理ちり其そのハ謂いでも明白めいぱく不な知しまら。縦令じゆうれいハ

三法師のとりも実名ともつてまらふもせよ。天下の全
 く足利の天下みして。原末織田の天下みあはむ。それと
 此く稜冠者みぬりまら。虚名の信親再び相と交加も
 穢ら。快く去と敦圉く。座と跪立て。後堂み入る。趾み
 ハ信將此然として。言句と飛去者もなく。いうありゆく
 やと撓らふと。信親個くみうち。笥ひ。己が父の不存斯の
 如く。疾石よりも率々まら。いりんと。況者ぐとき。い晦
 氣の至りあり。個くの不存。いりふぞ。承所と。とあ
 りら。時み。從來心。疾石の如き。谷忠各清進と。出。亞公の
 命。繪み。御程。至み。ひあり。這儀と。信將。い。いう。み。懐。め。さ
 る。やらん。誠み。高。嘉。の大。幸。み。して。亦。あ。る。ま。ど。き。造。化

あり。いづきも。這。義。み。同心。あ。ら。ば。我。志。強。て。主。君。と。練。め
 も。ふ。ま。べ。い。とい。ふ。み。門。く。お。ち。ひ。み。歎。ひ。忠。名。清。み。同。名
 一。ら。ま。ら。然。バ。と。て。各。一。個。元。親。の。前。み。出。元。親。去。ま。と。顧
 て。汝。み。み。と。う。稟。さんと。ま。と。い。ふ。面。と。視。て。然。バ。以。既。み
 命。出。され。ら。信。祝。君。の。御。一。言。理。切。て。至。極。せ。り。何。分。み
 も。懐。替。ら。ま。津。諾。更。あ。ら。ま。ち。う。い。と。謂。せ。も。起。ま。元
 親。声。と。暴。ら。げ。着。御。果。ら。る。忠。名。清。が。稟。條。浩。る。言。と。聆。耳
 なき。ぞ。早。在。と。記。と。罵。散。一。別。堂。み。こ。そ。投。と。ま。忠。名。清
 も。詮。り。と。ま。り。ま。ら。其。座。と。退。出。て。信。親。み。其。執。と。演。所。え。
 再。び。強。して。斥。相。が。方。み。到。り。斯。く。せん。と。禪。と。ら。る。み。ぞ。
 且。元。早。速。言。知。み。入。来。一。信。祝。み。對。面。して。針。箴。と。襟。合。せ



片桐且元
 信親儕と
 謀る長曾
 我部元親と
 歸服せしむ



りりみそ徳將残らむ舎集して。六十八人列信あり。元親
 元松疏と呈を元親おとと棟揚て。定て信親忠名傳らる
 言と落解緯あんと。死て聞きハ其丈國家のおみより
 て。大将万ふ一もあは備所結心なれおひてハ。信親と
 もて長考我部家とお後ふ。俺們こを不隨後去て忠勤
 と竭すべき肯六十八人一同不列信あり。願書あり。
 元親おもをを納疏と抛棄言語不絶する汝儕らな。浩る
 不忠の武軍といおもハざり。ハ。呼穢らそ。き心底み
 おそと怒の眼み泪と泣め。齒と切鳴してあり。らると久
 武内藏助細川源九兼つ。九右より進出居の身として若
 と計りよてまつる。其罪もつて軽うらむ。然ながら。斯ま

で我ひ軒下み造び家の立べき不謂と聆む。然る不秀吉
 仁義廣太ふして。民と水火の内み救ひ。おとと助る不武
 儀ともつてま。おと不依て陸ふ者ハ榮名運くそのハ破
 る。這上みも我ハ。天み運ふらと謂つべ。先祖の名と
 下。おとまの我名水の泡と消んことおと朽憾らむ。
 新皇バとて君と耻しむらみ似ととど。何ぞ不忠の志と
 懐くんや。軍み君の武威とも損さば。御家長久の謀計と
 存むらあむ。何分みも御怒と休めらむ。臣儕が歎ひと
 所濟玉り。縦命令と唱さる。とも。恨もふを所ふし。
 只後歎ひたてまつると。六十八人一齊み頭と垂泪と流
 して歎ひらる。有像み我慢奮烈する。長考我部元親も。稍

豊田記九編卷之二

忙然としてありけるが。中へ嘆息し怒り。汝侘しく聆
 け。君と共にお存亡とひとつおまると。居の道と。斯まで
 主人と疎くおべ。快より辞別を乞傳べきお。這形におよ
 んで。王とと耻しめ。蔑むるの何みぞや。這上へ是れお。逆
 を。不忠の輩と手お到て。際く。狂捨斬り。黄泉へ逃の外
 ありと。大い怒て。突犯の時。境の分より。と。元相且元満
 の紙戸と。推開き。大書声お。内府秀吉公の。使として。元
 相市正且元長。為我。於元親へ。取次お。と。呼たりつ。魏
 一きお。拾して。廳上お。通じ。預て。より。謀合せ。一。續ある
 由え。法將各下座お。礼と。整して。膝伏を。市正へ。上坐お。威
 儀。結ふて。座し。り。お。ぞ。元親の。よく。鞠果。その。望と。紀

んと。お。り。り。と。元相志は。と。呼止。元親と。本座お。後さ
 せ。雄每。寛吉お。言。発らく。内府公より。使の。い。端と
 以。軍め。さ。えて。後。諾と。不。諾。の。大將の。心。の。信。お。せ。る。る。べ
 一。既。お。自家の。臣。侘。より。安。危。の。見。見。と。言。さ。さ。ぬ。ぬ。と。我
 又。改。お。演。説。せ。と。も。變。一。め。さ。る。一。續。お。の。お。と。ど。君。令
 奉。て。来。一。且。元。這。候。空。一。く。悔。お。乃。お。一。并。と。も。て。一。倍
 と。言。を。お。ぞ。ある。今。並。彼。写。お。て。所。得。お。元。親。の。網。と。して。
 義。業。の。魂。子。と。育。達。天下。お。翼。と。翹。さんと。せ。り。り。ど。り。個
 を。と。と。言。さ。さ。お。き。天。お。双。の。目。の。あり。と。も。両。勇。並。び。立
 ざ。ら。常。規。所。成。遂。ざ。ら。期。お。の。り。り。て。際。集。と。松。出。と。も。孰
 ろ。お。と。と。教。を。べ。き。教。一。が。と。き。と。能。也。る。一。悟。む。べ。き。と

却て懐とむ。是や吉の仁主といふべし。原来一隅小拳旗
 まらものか。勢を城壁と扱とんとして。降るの鄙怯とお
 もらんや。是或士の覚悟ふいあんぬととも。大将一個旺
 捨剋て。衆多の軍率と濟助も。又或士の情志あつむや。別
 て。猛將の覚悟あつて。城小穴と散妻等と刺し。英くく
 幾ふて。主君と黄泉の途と借ふを。是又武門の者乃あり
 茲小一解の義福あり。公へ智勇蓋彼の良將然へおとど
 も其人ふして。その病ありと當とあろへ。我慢の強き
 ぞ。越治ある。其病根と療治せざれば。却て尋常の人小者
 となり。万人小勝るし。身と持て。万人小者ること。朽感く
 こそ思ふな。是古往今来。主將没年。弓抗矢。弾て死と倣を

もの。林園花の飛りも多あり。それが中ふも元親主
 後心と一ふし。力と勤せて。内府の軍格小款まるとも。宛
 石卯おある。小彷彿り。其と量理むして。戦死の覚悟し
 玉ふ。元親ふい不忠不信と緋らるとも。返を辞のあり
 と。も覚えむ。それとい雲壤は。強と校吾君内府秀吉ふい。
 他とも懐と自とも哀と。百年の寿と全ふして。天下の煩
 疾と除りんとす。あまふつて。身戰場羽柴の者士と。必
 まし。く。足下小秋毫ども。憎怨と懐らむ。却て。慈愍と垂
 む。ふ。待父母の婆兒とおもふ。が。縁く。我憎小募り。軒下小
 も。降糸セトと。暴落罵る元親とも。て。抱まで。抱換し。至理
 と。端して。解示さる。と。聡悟むん。バある。べり。を。研業

果さで世ハたまきまてと思断玉り。切てハ義棠の胤孫
みても。全ふまべふ義りと。遠く遠らま心ハなくて。噫
一や東西もまらぬ。勿君とも刺殺し。其身と共み果さん
とハ。誠み不忠不信等あまむ。其本心と當ていも。後
義棠の胤孫と名として。自己の権威と連んがためなり
此朝ハハ期みありて。いらみ解とも解悟なうらん。方僅
長考我初の家の子。侍。六十余人同意して。元親の我意み
背くま。と決して不忠と謂べうらむ。別て又十義徳居ハ
村。儕。單。小。主。の。大。石。と。懐。持。と。大。忠。臣。と。云。つ。べ。い。内。府。公
みも其親より。渠儕が忠信如金石。小主人と思ふの。深き
と哀感ま。く。く。ら。の。ゆ。え。斯。且。元。小。命。听。ら。ま。説。諭。せ。と

の使節あり。天下み立と立ざらもの。明々ありとあまざ
るもの。天下ハ一人の天下みあまざらもの。明々ありとあまざ
遠慮ととらさき。其上みして一言の。在。答。と。听。承。ら。ん。肩
みもあまざり。一に相且元ら。去。礼。の。條。く。免。と。う。ら。ふ
るべし。と。流。石。羽。内。府。の。目。鑑。み。極。ひ。使。節。み。立。と。り。切。賢
ま。く。母。の。明。あ。ら。み。さ。な。が。う。風。の。生。む。ら。お。と。く。智
毎の速あり。ゆへ。あ。ま。り。も。水。の。流。る。如。く。三。寸。の。舌。み
子。存。の。石。と。院。時。し。言。語。の。至。理。み。波。屋。い。よ。く。帰
服しつ。その色面み。致。ま。り。あ。く。み。お。ひ。て。元。親。が。我。慢
の。仇。牙。忽。地。折。け。傲。瞻。の。感。涙。淋。瀼。と。推。搥。ひ。又。も
く。後。殺。と。り。市。正。が。解。愈。こ。が。偏。碎。ハ。今。受。み。愧。悔。ら。と

もその甲斐あり。君は仕へて忠義と失ひ居と振育して
 仁信と失ふ。礼も智も乃ちなき身の向方のなき面目
 ぞや。唯此上の東市正が教諭不信せん。元親齡の長と
 りしうと。弱年の信親も及むとて。直子息信親と
 喚出。固し某方の孝子あり。これ肉眼の瞋ふして。人々
 観る。緯能はざりしが。方僅且元が聰智も憑て。心の雲霧
 晴れぬ。従来懐しと懐若し。又十益兄弟徳存。信
 義も感むる。不餘りあり。疾く羽内府の旗下も帰順。心
 力の途不量。迎へ。今日の恩沢と報むべしと。轉變し。義氣
 信。膽古今。獨立志の英傑。後末を名家の大忠居とありて。
 大坂滅亡の期。不至るまで。忠志の長く愛せざりし。斯

不受。く。惠情ありとぞ。依も長。曾我。仍元親。其。繩。短。窄
 の内より。發動て。既。不。四。國。の。押。領。司。と。あり。武威と海内
 又。怨。不。せ。し。ら。ど。忽。地。羽。内。府。の。威。徳。不。靡。を。後。末。絶。ま
 て。抵。款。して。楯。下。の。降。へ。安。國。全。身。の。緯。得。べ。り。と。む。と。察
 知。せ。し。ら。バ。戦。死。の。外。は。あ。ら。ず。と。覚。期。し。子。息。信。親。諸。君
 倚。が。練。と。耳。不。も。觸。ざ。り。し。が。憶。後。け。む。に。桐。が。神。智。妙。各
 の。演。舌。不。秀。舌。の。寛。行。と。ち。ま。ち。完。悟。し。己。が。不。明。と。眇
 耻。して。い。よ。く。ま。ま。く。羽。内。府。の。仁。度。弘。大。あ。る。と。し
 り。心中。滅。ま。し。帰。服。し。つ。元。親。と。つ。ら。縑。跡。て。餐。食。の。幕
 と。完。き。酒。香。燻。ら。る。く。市。正。不。池。走。あ。り。最。後。不
 及。の。佐。般。と。この。百。札。と。竭。して。帰。し。ら。る。然。布。ど。不。氏

相東市正且元ハ本陣不復返リ。元親が始終の拳止とお
ちもなく言状一々をハ内府大不悦悦ましく。再々東
市正もて傳達あるハ元親父子まをしく怒轟。海山の
献呈品一して本陣又参候を屯。斥相これと紹介して内
府の清茶不奪くハ長考我知つしんで叩首伏眉屯。
内府市正ハ下辞あつて元親父子と親く昭させ声棄
又宣くこれ長考我知元親父子ハ初対面の儀ハお
る。遠遣使節市正もて傳信不返ふのとある。速時ハ合
せしる。條最も將て波足あり。此上ハ唯時際折天下
不誠忠の乃と竭させ返く。天下一統ハ平治の勲切言你
とらハ本の如く俸むべり且と。正政の親制不をハ。憤後

阿の三國ハ去ばらく除き土佐一國と領をへしと。その
信照と堀りてのちハ盃あしび不聘礼として。花袋とい
ふ強足子。春光の太刀一口。黄金三百両。それのとあるを
種々の賜あり。子息信親へもそれハ家一賜与の物あり。
亦先もて生捕おらし。長考我知掃部と親め。五十強倭
陣りなく元親へ返しある。中不統て元親の死ありと
て。務丸と極育せんと。阿良の位不より昭出させ内府の
以源意あるハより。俸須賀ハ安属らる。斯て當日ハ清操
嫌より。教刺ハ酒蒸あしせらせ。元親父子と本城不取さ
セ玉の是より。津田ハ澤苗あり。同月廿五日ともて土列
言知と清發誓ある。元親父子國境まで送りまけり。そ

是より後別宮松平清基あり。近辺の勝地は控覧あり。然
 して佐將の戦切不任ひ。恩賞の采地を分賜し玉ふ。まづ
 後召とバ小早川不綱り。そのうち三万斛をもて生泊不
 綱ひ。二万斛と安國ち不授与。阿波國とバ降須賀不綱り。
 其内二万石と三好正康不綱ふ。その外の佐將みハ上方不
 おひて。加恩の地と賜るべき命あり。佐々足利將九不ハ
 阿波取賀那平崎の庄古津村にて不斛と賜り。此采配と
 降須賀家不命属ら且。四國一統不治りハ且。肝内府佐
 將と督従して。大坂不還城し玉ひりり
 又十藏内通義死於滅忠 属元親登城
 軍ハ初く不易不して。治る不疑しといしどぬ。初治共不

安うしむるハ。獨り肝内府の幕内不あるのこ。佐も長
 考我初元親ハ。内大臣より賜りし土別と領て切勞の佐
 居家不賞与不。國政の汝法あるとある不。又十藏兄弟
 徳居刑初に村佐後を親として。其余の佐將悉く元親の
 前不出洞と流して言出らく。居の身として君と計る。そ
 の罪もつとも軽うと。俺們今日出仕せしハ。控せら罪
 不殊せらましく歎してありと。思投てぞ言しり。元親
 も名涙とまがし。いふく。それハ存もよろむ。己且今國
 家と全ふざる。續命是臣儕が忠賜あり。居儕が忠義あら
 りせば。己が楯下の隱憂と秀吉のうでら教まべき。肝采
 家不降りしと決して不忠不ハあるべうと。初不復ら

豊田訓九巻本



四國と
平均
得く秀吉公
大坂へ御帰城
給ふ

忠義をそげまさせよとありりば。個々感涙不咽ひ
 つ。斯へありがとき。正統あり。その恩活と報せん
 百斛の加恩より。遂に傍る傍視あり。その恩活と報せん
 り。九牛の毛の一枝ども。臣侍が廻りて能わざば。死
 して牛とも馬ともあり。謝しまふさんといふ。祠の断際
 も後とて。又十義内通。その望と還て。戒刀を掣より。速く
 そが首へ合結と。推齒喚声と共に。骸と希ふぞ。到墜しぬ。
 それと同じく。弟名庫に。村徳居侍おくま。と。危や自殺
 と。見へり。おぞ。元親おひひ。驚嘆あり。それ停りよの
 声の下。法將忙て。紀菟り。主令ある。を止り。玉へ何とて。短
 急玉ふぞと。箴重支て。推詰むると。元親も。借ふ。弛近き。這

ハ最惜き内通が。始末各いら。あり。意志ぞや。今日。これ。父
 子。汝。侍と。振度面と。對る。おと。歎。お。見。ふ。さ。さ。う。あ。く。て。帰
 望。波。豆。あ。ん。ぬ。り。み。豈。ち。り。存。ん。や。内。通。が。愛。相。哀。し。と。い
 ふ。も。跡。み。あ。ん。徐。の。個。々。の。思。ひ。遠。き。念。と。遠。ら。む
 べき。ぞ。倘。違。ひ。と。内。府。公。の。耳。し。め。さ。り。も。の。あ。ら。ば。我
 何。と。も。て。解。罪。せん。臣。侍。の。死。生。と。も。て。主。に。忠。義。と
 違。る。及。ハ。か。さ。ら。ぬ。もの。と。り。一。を。く。も。あ。ら。す。身。命。と
 る。矢。む。死。と。も。て。耻。と。言。ぐ。ん。あ。ん。ど。思。ふ。念。と。努。り。停。り。
 長。久。の。努。力。と。竭。さ。る。べ。し。と。及。理。と。逼。る。祠。の。個。々。教
 行。の。泪。止。あ。へ。む。感。入。て。ぞ。屠。伏。を。元。親。所。地。不。久。我。内
 益。助。と。以。不。十。義。内。通。が。亡。骸。と。最。懇。切。に。葬。ら。せ。余。人。ハ

吳痴くく理解と信て其死と止め。俸深の所談小迄不可
 不。又十歳各庫徳居刑劔脩こ色と領を病氣ともつて言
 立各遂不入道して世と山林小遊きりり。殊勝ありり
 る奉止あり。元親まましく感嘆せし。又十歳脩が子息
 と呼出。それく小俸深と脱ふ。備ふ。三日我死せし。金子
 入る尾と叙として。其外の七輩が。その亡魂と祭らんと
 て。一七日が中百俸の法舎と終行し。將又某脩の子息と
 もて。家督お授せし。且つも。破と結ひ。缺くを補ひ。國政
 と正し。ふふ。然して速上洛し。内府へ這遭の恩と謝
 せん。と。それく。小俸深を。信祝一存二百余人の借給
 と率伴。順風小整帆。推張らせ。大坂の川口小着船し。城代

元相市正が方へ使者もつて。出仕の部と報し。且
 元早速指揮して。儀釵の備と。元親父子。從后脩と。お
 且小搬して。その翌日。元親と入城なさし。元相こは。小
 對面して。最後の礼儀と。飾り。それより。京へ登らせ
 たり。這响内府秀右公へ。二條の城小在させ。政事と正
 し。玉ふ所へ。長弓。我幼。元親上洛あり。駿馬匹。擇り。二
 十枚。綿十卷。國後の太刀一口。おと。と。献して。御礼稟呈け
 且。内府。殊小。款。脱し。玉ひ。蚕連の上洛。後脱こは。小。さ
 ば。と。て。磁席と。用り。且。舞。楽と。令。属ら。せ。つ。も。餐。名。答。英。と
 呈。させ。玉ひ。系。於。見。督。命。出。させ。輕。く。花。洛。小。滞。留。あ。つ。て。
 大坂中の橋小邸と。賜り。所。投。助。あ。つ。て。元相市正小令。せ

長曾我部
元親父子
京都二條
の城へ出
仕あま



らとあきららの緯と科理らせむひらとば。元親青臚み徹
さるまで。忝一と思と紺を羽内府游て九列征伐の詞と
命おさせ。倘九列の軍志とがへざるみおひて。出馬援
各ことあるべしと堅く約と結むせむひ。御辞別とさま
ちり。土列へおその帰さどりり

曾呂利戲禪慰内府寂鬱 属狂歌劇後

閑書毎くお森怒哀楽あり。怒と園てい共お怒り。哀と園
てい陸ふて哀む。ことぐさめみ腸と傷一むるとい一ど
も。ことと醫まるお欬笑の外良劑おし。あつともつて一
戲後と後けり。此の羽内府四國の合戦と試合玉ふて
泉沢堀お清滞るの撥舎ありりら。徒軍の餘り堀の街

の高夫輩小西油屋と初として。其外豪家と唱集とまひ。
御茶ふどあそむさど種くの戲禪といとさせ。慰とむふ
其中お其頃此津の工職お曾呂利勢左衛門といふ。おつ
氏ハ坂内号茶と利休お刀の鞘と捨る者あり。お舌
お最勝とてね歌備後のお智お富。笑と温との娘と得
とるハ。是名豊公の軍労疲と醫せんがとめの天佐おる
みや。紅面ことと言状して。曾呂利と伴ひ恭候を。内府お
とと。お覧ありお。願ハ糸繫といふものふして。面相自然
と可候一お言さどとも人として。笑を一むるの風情
あり。秀右公近く唱させ。汝が曾呂利勢左衛門の歌家業ハ
いろみとありららと。新左衛門の肩衣お糸繫と。おば扇を

をくりみ。頭と擡て志どく。瞬き。率奴面ハ活針小。刀の
鞘と作りい。いりまど。る呂利といふや。唯く率奴が作
とる鞘ハ。世み恭平の名と立い。そろりと脱てそろりと
收むるゆえ。流俗渾名して。る呂利くくと呼ひ。ひ
ぬ。汝ハ狂歌戯言。み熟く。よ。何ガ言セと命をると。
素より臆する相。あは。内府の御相と熟くと祝まの
らせつ。最めづら。き。君ハ尙。あ。い。め。玉。ふ。や。
懐の中より。約の。出。る。緯の。い。現。み。興。一。ら。ふ。も。べ。ふ。あり
と。聆。し。め。さ。と。て。秀。吉。公。斯。ハ。禁。し。き。緯。み。こ。そ。あ。は。画。あ
ど。み。描。る。仙。像。の。甄。と。出。る。馬。ハ。疾。と。と。ど。懐。の。中。より。約
の。出。る。と。い。ま。ど。る。て。見。聞。せ。ど。汝。ハ。それ。と。疾。く。ら。や。と。

命も待とむ。新左衛門。率奴も疾く。と。能。その。術。ハ。得
てい。君。み。ハ。甄。の。馬。と。出。と。現。み。清。賢。ハ。や。帰。く。ハ。率。奴
み。も。看。せ。玉。と。し。バ。切。し。と。稟。と。内。府。殊。ハ。清。意。ハ。稱。え
せ。玉。ひ。汝。と。く。こ。そ。秀。吉。と。困。む。ら。こ。の。巧。し。さ。よ。今。我
前。み。て。懐。より。約。と。出。さ。ハ。褒。賞。と。得。さ。せん。い。り。み。く
と。命。を。ら。と。る。呂。利。ハ。怒。と。悩。め。相。み。て。座。と。遠。巡。あ。し
り。み。ぞ。内。府。ま。ま。く。興。み。兼。ト。快。く。約。と。出。さ。は。や。と。
熟。意。玉。と。新。左。衛。門。兼。果。せ。ま。わ。せ。し。と。快。く。罷。て。厨
み。到。り。一。の。塚。と。齋。出。来。り。已。が。希。み。安。つ。も。お。そ。る。お
そ。る。言。状。を。ら。く。唯。今。出。し。て。御。覽。み。使。ま。ん。が。偶。約。出。さ
ハ。御。褒。賞。ハ。う。あ。ら。む。祝。賜。ら。ん。や。お。遠。ハ。あ。ら。し。く。然

ハ出^でして御覧^{ごらん}み候^うとんと。堪^たと送^まひ一揮^いふるみぞ。あみ
う一箇^{ひと}龜^{かめ}出^でたり。新^{しん}左^ざ衛^ゑつおとと採^とて。御^ご希^ぎみ置^をと。内府^{うちうら}
幸^こみ孝^{かう}お玉^{たま}へば。是^んハ將^{しょう}碁^ぎの金^{きん}將^{しょう}約^{やく}あり。呂^ろ呂^ろ利^り吟^{いん}くう
ち笑^{わら}ひ。そとに最^もも良^よ約^{やく}みいあり。金^{きん}銀^{ぎん}桂^{けい}馬^ま香^{かう}車^{くるま}など。次^{つぎ}
舟^{ふね}み出^でしもふまをべらと。御^ご褒^{ほう}賞^{しょう}と賜^{たま}るべしと。怯^{おそ}るも
ま^まく喜^{よろこ}しり。内府^{うちうら}輶^{くわ}くと咲^はせ玉^{たま}ひ。爾^{なん}ハよくおそる氣^きの
つく奴^{やつ}うな。這^{この}秀^{しゅう}吉^{きち}み那^な般^{ぱん}の緯^{いと}と。まらるものおとまで骨^{ほね}
てあ^あ一^{いつ}能^{のう}成^{せい}たり。何^{なん}まは褒^{ほう}賞^{しょう}の品^{しん}と望^{のぞ}むべしと。命^{あたま}
み呂^ろ呂^ろ利^り頭^{かぶ}と町^{ちやう}き。斯^こハ切^きとさ清^{せい}錠^{じやう}みい。然^{しか}ハ褒^{ほう}賞^{しょう}と飛^ひ
星^{せい}ん^ん淺^{せん}一文^{もん}と。こる日^ひがその間^{あひだ}一倍^{いちばい}増^まふ賜^{たま}る。此^こ上^{じやう}まふ
福^{ふく}ありといふ。内府^{うちうら}心^{こころ}も屬^{ぞく}玉^{たま}をば。又^{また}もく^く微^びある所^{ところ}に

り有^あ係^{けい}ハ下^げ子^こありとく祝^{いわ}へん。それ納^な絨^{じやう}革^{かく}齋^{さい}きと。是^こ
と命^{あたま}ありみそ甚^{しん}優^{ゆう}取^とへ近^{きん}士^しと走^まて傳^{でん}へたり。納^な絨^{じやう}革^{かく}こ
とを听^きて大^{おほ}小^こ孩^わき。こをハ情^{じやう}大^{だい}ある褒^{ほう}賞^{しょう}みこそと内府^{うちうら}
へ備^{つぎ}不言^{げん}状^{じやう}まらみ秀^{しゅう}吉^{きち}云^い笑^{わら}えせと。ぬひ。然^{しか}の^こ云^い教^{きやう}の
みうハある。印^{いん}記^きとめて出^でせとあるみ。湯^ゆ洗^{せん}甚^{しん}肌^み膜^{まく}洋^{やう}て。
備^{つぎ}ふ記^きして呈^{せい}上^{じやう}る。内府^{うちうら}と。是^こと御^ご覧^{らん}あるみ
一日^{いちにち}み一^{いつ}淺^{せん} 二日^{ふたにち}み二^{ふた}文^{ぶん} 三日^{さんにち}み四^よ文^{ぶん} 四日^{よんにち}み八^{はち}
文^{ぶん} 五日^{ごにち}み十^{じゅう}六^{ろく}文^{ぶん} 十日^{じゅうにち}み五^ご百^{ひゃく}三^{さん}十^{じゅう}二^に文^{ぶん} 廿^{にじゅう}日^{にち}み
百^{ひゃく}七^{しち}貫^{くわん}百^{ひゃく}三^{さん}十^{じゅう}二^に文^{ぶん} 三十^{さんじゅうにち}日^{にち}み七^{しち}十^{じゅう}万^{まん}三^{さん}子^し四^し也^や又^{また}
百^{ひゃく}三^{さん}十^{じゅう}二^に文^{ぶん}
ことともつて三^{さん}子^し日^{にち}と積^つときハ馬^まみ箒^{はき}可^か汰^{たい}あるべき

おや量ぐと一言状を内府をいめて驚き玉ひ。又ももくも勇呂利の世子を覽き下帝うを帝と殊斗を臨む。この懐さよ。遠秀告も候もも一倍増の残りあそえんが。軍用金も呈上すべきぞ。べちお褒賞とあそえんとて。瑞器の茶入をとらむりらると。新方束の推しとびひて取あへむ。

倍ましお量濟しと釜の声。茶入ちやとの。是勇呂利。秀吉公殊の外お清意するはしく。是より毎日御前へ。昭さし清結対人おあそむさ。種くね淡あありふ。女幸侍士お命ぜらとて。馬と騎らせ玉ふ中お。加茂左馬助。天下お名と得し。名人あらゆえ。世お以て。贊を

曲騎おどして。君と慰めまのせと。勇呂利も清前お。恒候して。騎馬と見替あし。年納ありとて。担飯お。番行添て。三度入の。務土番お。くそく。銀け。信人。と。藤出時。界大谷。若隆。大馬。といふ。強足。お。粧。清。く。兼。出。一。這。日。と。襲。晴。と。弛。也。る。浩。る。所。お。福。島。正。利。卯。花。毛。といふ。強。馬。お。跨。り。毘。毘。股。太。き。お。鞭。と。加。へ。最。英。風。お。競。走。し。ら。と。内。府。お。志。ま。き。り。お。声。放。玉。ひ。彌。納。出。せ。彌。納。出。せ。と。宣。へ。り。信。人。お。是。と。軍。深。り。年。納。の。飯。お。豆。胡。麻。ら。け。よ。と。命。ま。ら。ら。と。劇。しく。其。相。繼。して。献。ら。せ。ら。ま。は。内。府。こ。と。と。離。え。し。お。癡。子。奴。ら。何。空。耳。の。疎。ま。し。さ。よ。と。叱。ら。せ。玉。ふ。と。新。方。束。の。衆。散。む。

極飯小黒胡麻うけて出さると皆人おとみあらうま
 といふ内府布どんど興い玉ひ膳人おも御褒誥ありり
 る此胸号呂利微せば御不興と羨るべきみ翻て御褒誥
 逢ひ一ハ強み一粒白の徳ありり亦一日号呂利と唱さ
 せ當日も礪の席と結むを今日の結戯の初のうちみ尻
 てふ言といふべうらむ甚と意容て何辨まれ言葉往來
 をへきぞと宣たするみ新左衛門吟々然と面と挙げ余
 令膜拜とてまつる君備尻と宣ふ胸ハ何があは代と賜
 へさし平奴不覚み尻と言さへ過代ハあみまき奉ま
 ふさんと所しめさきて秀右公鞭然と大笑し玉ひ宜く
 も言つるもの哉汝が尻と齒出るときハ正裸おして黄

昏まで警察させん予も言ばあみまき可欲品祝へんそ
 れく解領震脬の腰よりぐぐりの縛うとらえ弓削の
 法師の大内信平言聖六十形智八十の純陽夜活が興が
 る欣快く浴は疾禪とと急せ玉ふと平法色ふあえとる
 袴ひき整し納言結婚の水灌漑み發陽のつまのいまど
 物裏裏の押勝乃鏡り内裡女帝の不合く幾あはらるる
 が偷會佐伯氏長の極飯をさし小聖目代のうり足足ヤ
 ら京月坊が戲歌口盲子の角抵後妻撲古代結今世後と
 今日茶小親る如く催馬床めける曲音御ませも振目を
 ひおりーがみ突洞を碎うち雑へありうめもせむみ
 掌拍うとるちどみ言るちどみ聆在法座の個くハ領と

解頰と張脐履をむりりみ笑ふて梁の塵ハものうハ礎
 までも鞠うせり。内府ハ清耳聾玉ハ言僅ヤ禁烟と発
 言欲急ヤ志とまで口放りぞりといへり。と律も吞
 あへど。とめさせ玉へど巨臆の多呂利言信さ茶ぐら翻
 波の如く昂轉急して陥らぬ智言方毎の後急ハいとも
 賢き内府も所と熱して感佩し玉ふ多呂利ハ喉の
 濁り相して以茶一服湯べと。咽詰却て舌の根も焦
 うと覚へいと聆りめさえて扈從と召させ。それく服
 と況へよと命せおやおら茶乃目が塗天目ハ後扱と悲
 けて茶くく齋出る。新左衛門の推裁き一口啜て眉と蹙
 り。汗笑止あり此以茶ハ水性布どく悪ふして茶味分

外ハ磬うらむ。まきみ能て不徹ある。秘密の仙法と聆迄
 べり。其法ともて煮る時ハ。いうあり濁汚要水も。極楽ハ
 ありと聆ハ四徳水ハおさく。客らト君ハも傳へもふ
 さんやといふ。内府元來茶礮の境ハ最志嗜ませ玉えハ。
 自と忘てて其と傳へよ。いうみく。と向遇せ玉ふ。厥ハ
 此圖と失さ。一尺斗進膝ハ。然ハ其秘法ハ。陸羽ガ
 仙家ハ茶法と付受せ。二十七條のひとつあり。訶梨勒
 の根の土隆ある。木目の細み編らると最志擇で伐らせ。
 そと池水ハ浸させ。日三七日。そと亦晒させ。とも三七
 日。然して新と釜ハ作らせ。再び湯を煮て。三七日。なる木
 の悪臭と除ひて。后這釜ハ。湯を煮る時ハ。そのおち

殆も天津降りも其露といふとも氣者といふと其面目も
 ちつて舒ると肝肉府此ハ概しき法こそお是木と釜小
 物て風炉小鈎あはき尾忽地焚脱あんと宣小呂利ハ
 膝揉して肝切ヤ御聘とと堂張て呈出也内府更小以意
 属うむ何ともつて乞聘するぞ然以君小ハ禁烟と笑ち
 玉ひ木の釜あはは尾忽地焚脱あんとこの以細小そある
 以過代ありと聆しめさき大に完て笑たせ玉ひ儲あそ
 呂利面荐び弔と畏小羅くりうーあーく聘物祝せ
 ん倍く残の外あはは何有は菴めと命せ小佐列多命あ
 る取望ハつらまつらド紙袋小采一盛揚らば忝あー内
 府去むらく沈吟し玉ひ一盛の外ハ禁止ありとて是を

舞さき玉ふみより新左衛門の本布ひ小款ひ拜辞もふ
 て自家小降り何縁紙多く結負め主従他人までも借ふ
 て三丈五ふ七丈八尺計之の袋と依り手次足次持て往
 御飯小役り一袋糧の白壁倉へ棟頭より風履と礎土
 てお被らせりらと視て廣法司大子様き底子おろ做と
 処めりり呂利吉面目小嘆ふ一此采倉ハ君より揚ち
 る所ふはは今より除く運び取はらちん小然思さきよ
 と聆てまきく驛怪しと蚤速内府へ松ふ万と所し召
 きて呂利と拓りは汝過刻紙袋小采一盛と乞しおあ
 らむや方僅倉法司の祈ふハ紙袋もて倉庫小被らせと
 るよりあり苟且ふも倉庫と祝へんと予ハ言さト采む

うりあら祝ふべし。汝孤身おて齎て返す。又さくく困む
る。緯のこ做出を揚児面笑たせとぬえ。若呂利其候一
又の向み

ゆりおめの白きと君へおしませて揚りみりふ
る。采のこ時境松てまうさく。御秘蔵の松の枯もふしぬ
と。内府甚ふい喜み。怪しふおちしめさる。みそ法将連

も眉とひそめ。みなりうんみと冷き合へり。若呂利昂地
み攘禍呼福を

御秘蔵の世のまうの拈みりおのがよをひと君
みおつりて。斯咏しはば秀吉公と叙めまわらせ。御座
下み侍る法将連も。おちひみ気色と調合ふて。おはより

まをく内府みへ。新方集つと愛玉ひ日く夜く座右と
放さで所行と試し玉ふみ。或日相言ともて改換を較喻
し。ある日へ戯言のうちみ軍略と密解を身へ高丈のり
ろく。まきも。心へ丈夫の撰哲み勝る。実元あうと
若呂弁一祝しませ玉ひみりり

内府使仙石秀久鏡薩及 属我久雄毅
日月暇み輪行て万物と長生はこま送さる風雲あり。

況み人界の苦熱ハ。天然造化の器みして。合致も。念こま
み準理を嬰曇の祝り。増減知みへ。祗来末の治乱と紀
せり。あうともつて。空る時ハ。天地の間み秋毫も。決然と
らざる所あり。然ハ我公賢しくも。只月一。百又十日み。四

らざる所あり。然ハ我公賢しくも。只月一。百又十日み。四

國の大敵と斬随刃。賸元親父子と帰服し玉ふ行業に。現
 みく天佐の軍ふあん。然どもいまど九段の地。勅乱志
 むく鼎沸して。平均と和せざりらど。内府久し。此
 りと後懐し玉ふといへども。其際と得ざりし。既し四
 國も治み入り。先西國の強亂と靜結せむやと。懷念
 され。既し遠慮と。一玉ふ。然ども。後し大友あり。肥
 前國の國も。純造ちあり。ま。薩。長。門。の。諸。將。も。皆。大。友。の。臣。也。
 のく。武勇も長し。速も権威と振ひ競て。さあぐ。吳。魏
 蜀の昔も。一合戦止。响あけり。中も。純造ち
 隆信ハ。鳴津が。め。攻。逼。ら。る。推。勢。漸。く。衰。へ。き。り。今
 ハ。大。友。鳴。津。の。兩。家。境。と。争。ひ。地。と。割。ち。然。る。も。鳴。津。ハ。次

第子。斬。捷。威。勢。日。夜。不。増。長。し。ら。ど。大。友。家。ハ。略。と。經。る
 ず。軍。機。微。弱。も。あ。ら。が。ゆ。え。今。ハ。自。分。の。力。み。て。戦。ふ
 とも。勝。こ。と。能。ま。ど。鳴。津。の。と。め。み。亡。ひ。ん。み。と。察。し。ら。ど
 べ。秀。吉。公。へ。降。参。と。ん。ひ。九。段。所。征。伐。あ。ら。み。お。ひ。て。ハ。御
 斜。隊。導。示。つ。り。ま。つ。ら。ん。と。こ。と。と。取。ひ。り。ら。み。周。内。府。大
 友。も。降。と。赦。さ。し。望。み。ま。ら。せ。て。導。示。を。べ。ふ。命。ら。し。と。る
 其。根。元。是。食。内。府。の。遠。謀。不。し。て。始。大。友。純。造。ち。鳴。津。と。三
 立。と。ら。時。ハ。征。伐。も。つ。と。も。艱。難。あ。ら。ん。と。時。と。待。せ。玉。ひ
 り。ら。み。果。し。て。鳴。津。勢。威。強。く。遂。に。大。友。純。造。奇。と。推。損。し。
 今。ハ。鳴。津。の。一。家。と。あ。ら。の。と。あ。ら。る。大。友。自。方。不。属。し。ら
 ど。秘。し。これ。と。執。悦。せ。し。先。使。者。と。も。て。試。し。ん。と。別

地仙石権名清秀久と召見。猶しく命所らきて。天正十四
 年四月下瀬薩廣の國へ向てせ玉ふ。秀久仔細に膜拜す
 のらせ。旅宿して馳下り。山海風土の苦と厭む。薩廣の
 國おるる。海上激波不避らきて。又十余日と経る。乃
 る也え。六月の中ふして。信津の城へ到着す。内府の使
 使あるよしと信傳ふ。信津終理太丈義久弔地に通
 せとあり。乃らみぞ。仙石ともて甲丸の上廳に容とり
 ぐ。對面をべき席ふいあて。圍房めき。室に通。義
 久衣服も整とめ。不礼氣ふ出て對面を秀久心中怒る
 とい。一ども。忍で指揮の席お坐。義久ことと眺とありて。
 秀吉の使士何るぞと。訊み権名清秀久も。不款の勇士な

り。乃ら也え。内府上使の威と減さを先度志む。羽内
 府より。九段の倫輩へ清書と祝さ。干戈と止めて上洛
 す。公將と領て取持の地と。靜謐に至ら。民と安ら
 ら。むべき旨命せらる。といふ。一ども。信津一統
 ことと用ひ。猶九段と縱横して。民と塗炭お苦む。る
 条。驗み運天と謂つべ。天怒忽地甚。寇と紀をべり。と。
 漸く四海泰平に至らんと。する時。向として。今ある民
 と苦患おさ。一め。致率の命と損ふんこと。天の仁。とる
 道。み樞を。ことと因て。智く國戰の汝治と止ら。且。高家
 の意。報と。吟唱さんと。再三使節。う。ち。あるところあり。
 倘泰平と。其むべき意あり。速に上洛して。快其寇科と

豊臣記九編卷之二

十五

謝せしむるべし。然あるにおひて、素の如く。本領安途と
 らしめん。天下國家の定めとたもひ。快く帰降し九段靜
 謐とらべき由。内府よりの命ありしと。嚴ふこそ演じり
 り。是義久仙石の節。屏くともと聆といへども。東
 西不熟とら名將おどバ。些も怒まる氣色なく。快然と
 て秀久不弔を。呷甲喉洞と竹ものりな。近來身ても信
 長が馬の法。德瀬せし小奴ら。今我方へ使者と連るふ。上使
 といへるハ笑ふに堪じり。遠義久お云。礼の指揮どて。孰
 う暇ふ意あらんや。秀吉茶お天威と肩おし。推柄と恣お
 を。却て自己が罪とおもを。義久父子お罪ありとい。何
 ともつて。礼言疎語を。秀吉誠信の心ありて。天下の靜謐

と懐ひ。天子へ忠勤と竭さんとあはる。道と整し礼と守
 り。深切ともて言。越べきお。然ハあはる。せして。格威お強。乘
 不。礼。非。送。の。使。者。の。口。状。吾。備。長。お。隨。じ。倭。諷。の。絨。お。臨。
 是ら。是。従。來。の。武。名。を。磨。滅。せん。汝。志。を。む。や。開。も。我。家。ハ。
 謙。倉。右。大。將。より。お。續。し。て。一。點。半。科。の。痕。疵。と。蒙。ざ。ら。四。
 家。と。ら。子。普。く。天下。お。知。る。所。あり。四。百。年。間。天子。お。對。し。
 不。忠。不。義。と。行。ふ。こと。なし。罪。と。受。じ。る。纏。お。ら。は。他。國。
 の。軍。馬。と。我。國。へ。踏。込。せ。ら。例。も。なし。秀。吉。一。拳。の。運。お。
 兼。し。て。官。位。と。極。む。とい。ふ。といへども。何ぞ。勤。ま。で。我。と
 能。し。礼。お。不。缺。じ。ら。使。者。と。し。し。む。る。汝。快。く。辭。歸。り。秀。吉
 又。考。の。人。道。と。よく。く。學。で。然。し。て。后。使。と。務。ら。ば。我。も

亦返善をべしと稟所せよと。聆て秀久大不怒り。義久の
 詞こそ不礼な。主君内大臣秀右公素ハ織田家の被官
 なるども。明智と殊して先主の仇と報をせむ。礼儀を
 征伐して強國を誅め。天子の震懼を安しむわくせ。万民
 の苦と救ふ。東國北國中國四國の平安。天子の
 下。天子も此を最感。三公の職不任せらる
 る。ひとへ主君の切骨と。温達しむふところあり。一
 天の大君。内府の武徳と賞。こと困徒あり。増
 して。矧や。侯太夫おひて。や。食よく。降せしむ
 へ。是天命と。明ら。ふ察。由。今秀右へ。天子より。
 四海の政。と。関け。内府の命。は。あ。ち。天子の

勅使あり。おと背くハ遠勅の罪。尚家ハ数代の舊
 家。おせよ。天勅。お背き。台命と拒。干戈の。と。怒。し。
 九死の中。と。強。勅。自滅。と。招。基。内府。仁。慈。の
 所。料理。と。も。和。降。と。勅。め。玉。ふ。也。え。あり。然。る。と。却。て。恩
 と。警。と。ら。返。善。ハ。笑。止。子。万。の。所。存。強。て。降。と。勅。め
 ざ。む。バ。それ。ハ。心。不。任。さ。ら。べ。し。然。し。違。く。下。向。せ。し。使
 の。乃。士。足。下。が。の。返。善。と。その。ま。み。ハ。言。状。し。ぐ。と
 一。他。の。義。ハ。さ。し。お。き。内。府。と。も。つ。て。礼。義。と。知。ら。む。と。い
 を。一。言。その。所。謂。と。兼。所。を。人。其。人。道。の。上。下。あ。る
 ち。尚。家。お。ひ。て。ハ。毎。へ。あ。ま。き。や。縦。令。吾。友。人。の。下。辭。お
 も。せ。よ。天子。の。宣。旨。と。傳。ふ。お。な。ど。追。從。の。妄。言。あ。ら。ふ



内府の命と
 奉る仙石
 秀久薩州
 鹿見島の
 城へ使者を
 來了

豊後國大分縣大分市

十七



豊後國大分縣大分市

十八

ぞ。糾つとや内府うちうらの命あまのとハ無む皮くわいの旗はた不ふ達たつとら不ふ言ことばと卑ひしめ
縋つらふハ官位くわんゐの恐おそ畏れもあらず。然しから不ふ言ことばに無む道みちの指さ
揮つとハ何なにともつて稟もうさる。ヤと。色いろを多おほくして鞫きく問もんを
幾い久き荒あ余あとち笑わらひ。汝なんぢ侘わおとき。汝なんぢ怒どの族うぢ不ふ聆きを益えき
あまき不ふ似にとまども。尋たづみまうせて言ことば所ところせん。秀ひで吉よし利り慾よく不ふ
身みと臨おとし。礼れい義ぎと忘わする。とハ不ふ所ところ謂いハ。秀ひで吉よしを孫ひつの匹ひつ丈ぶ
あまし。不ふ信のぶ長あきの提ひき揚あふよつて。播は呂ろの領りやう主しゆとありつる
とさえ。不ふ分ぶんの立た身みとねもひし。不ふ信のぶ長あきの警あやと報むかへばと
て。その熱ね切き不ふ強つ兼あ織あ田だの一族いっさく老らう后ご侘わと残のことく不ふ殊ちゆう
戮り。次つぎ衛ゑ不ふ天てん下かと我われ有あと。天てん威かと冠かん不ふ。不ふ言ことば不ふ信のぶ長あき
士しと降くだ系けいあさしめ。終つひふハ幕ま下か家け臣しんとあし。其その意い不ふ志しと

がハざるものハ。朝あさ敵てきの名なと掩おほをせて。あまを伐うこと瓦が
石いしの如ごと。最もつも戦せん國こくの平へい風ふうあま。徳とく家けの興きよう廢まいハあまべ
きあがら。仁にん義ぎともつて伐うとき。徳とく人じんことと悪あくとんせ
む。さ。嶋しま津づ家けハ往あや古こより。日ひ薩さつ隅ぐの三さん只しと領りやうし。あえて
他た國こくと犯おちせし。不ふ事こと。然しからと近ちか年ねんを後ごの大おほ女むすめ西せい海かいの内うち
不ふ威かと養やしひ。九く死しともて辱は辱は吞のせんとも。其その威か強かつ兼あて吾われ國こく
とも。掠あ奪だつをんと改か企きし。是これ不ふよつて大おほ女むすめと警あやと結むすん
で屢しばしばく戦せんふ。戦せん國こく不ふして警あやと伐うハ。あま英えい勇ゆう士しの平へい風ふうを
る。あま吾われ今いま大おほ女むすめと亡なして。九く列りつの地ちと平へい治ちあさんと。仁にん
義ぎの軍いぐんと紀きせし。所ところ不ふ。施し造ぞうち隆りゆう信しんことと拒こたで。滅めつ亡ぼうしと
り。稍さう大おほ女むすめもその威い勢せ近ちか來きハ有あてあまが如ごとし。吾われ力ちから不ふ

三十一

廿

て九列の地と十が八九ハ斬取とまバ。我久が望海は足
 ぢり。然ら小秀右使士ともつて。吾軍と止させんとハ。自
 己が利慾と推臣。勇士の本意と蔑み。本領安途未さ
 しめんなど。稟をを伺巧不礼を送の下辞あそむや。秀
 右武送と知るものあそむ。吾今九國と一四セーと賞
 て使者とつらハさ且好と結ぶべり。不。吾慾不干戈
 とやめよといひ賸へ。こが斬取とる國郡とも棄取らん
 との拳勅横面部が一時の威勢と吾何か性不畏るべき。
 向後本意と遂むんべ。ちりつて軍馬と退收まト。それと
 強て拒むとあそむ。秀右そつら。弛來りて吾と干戈と
 交ゆべ。葉弱の徒と交戦して。それ不志むく勝とる

とも吾海尖の強不逸ハ上方武士の活膽と落して秀セ
 ん斯て念大女あんどが秀右へ降糸セーハ其勅葉併り
 威勢不慢る時ハ秀右ハ勿信長も。志むく招けど耳
 小も容とを今稍大女義統が頭不双の臨まんことと怖
 して危急と逃れんとせ。胆榮不降と乞へるものあり然
 るときんを渠併が降降ハ余吾勅切とることと。秀右心
 不懸るあそ。いよく礼と厚ふまべき。おとらのりも
 毎えむ不礼の使者と高城と。吾送といひ。が襍膠り。
 活る不礼の使者とつら。び。活て返まべき。あハあそね
 ど。這返答と耳せんせめ。吾不返。巻をあり。快く返と
 と罵りつ。ち吾不命トて逐起と。仙石秀久眼と瞋ら

一。やおと義久よしみひさ跳と墓かぶて刺さ處ところつんとおもひーりどもおのち大持おほもち
 の使節しせつと奉ほうる身み不ふ殊そ忽とつの奉止ほうしありごこーこの這場このか不ふして
 徒死とどせんより。返返このえ善ぜんと言状ごんじょうあり。御軍馬ごぐんま當向きりむかひとぬふ時とき。
 斜まがひと乞受こしうけ戰場せんじょう不ふして。今日けふの懺念ざんねんと散さんぜん不ふい如ごとくと。
 胸むねと結むすめて辞返ことごとる。此後このち戸次川べつせがわの戦いくさ不ふ自方こゝろ牧軍まきぐんせーと
 とへ。返根種このねがとぞ知らせりん

繪本豊臣勲功記九編卷之二了

